

「子どもたちが生きる幸せを感じるために」

～今 私たちにできること～

人権教育指導員 天満 美穂

人権教育指導員として昨年より活動させて頂いております（三木市）青山在住の天満です。
宜しくお願い致します。

私自身、現在三姉妹の母親であり、また「公益社団法人日本駆け込み寺・兵庫サポートセンター」（NPO 法人自立生活支援センター「歩」）の相談員として、相談業務に携わせて頂いております。日本駆け込み寺の理念であります「たった一人のあなたを救う」を心に置きながら、平成 24 年より活動しています。

また、NPO「歩」に関しましては、子育ての悩みをお受けする「子育て支援」、並びに、学力や生きる力の向上を目的とした相談をお受けする「学習支援」を行っております。各種相談は無料でお受けしています。

前段と致しまして、あわせてご承知おきの程宜しくお願い致します。

私の生い立ちと、児童養護施設に 5 年勤務した経験から、子どもたちの力だけでは「生きる幸せを感じる事」が如何に難しいか、という現実を学び、葛藤しました。

養護施設では、2 歳から 18 歳までの子どもたちの成長を見守っていました。入所に至る理由は「虐待」が圧倒的に多いのです。他の様々な背景でも、すべて大人の事情によって子どもたちが家族から引き離される現状でした。

特に印象に残っている子どもの言葉は「私ら親に捨てられたから 意味ないねん」でした。みんな平等に生きる権利がある中で、職員として、関わる人間として、感じさせたくない気持ちです。どんな事情にあったとしても「親、家族との別れ」が自らの存在意義まで不明にさせ 心から人を信じる事も難しくなっている事を痛感しました。

入所中、生活習慣・生きていく力・進路・就職等、一般の家庭で学ぶことを施設での生活の中で経験していきます。しかし「親、身内に勝るものなし」で、虐待を受けて辛い思い出があったとしても、子どもたちは親を信じ 守ろうとしていました。（引き離された家庭がかけがえのない居場所だった事）その気持ちに素心で周囲の大人たちが寄り添い「大人

に認められている」と実感出来れば、こどもが安心して自分を見つめ、自信を持って日々を過ごせる「居場所」になると思いました。

この気持ちを育てる大人が、親であっても、身内であっても、社会で関わるあらゆる人であってもいい。大人の責任感、正しい人権感覚で、個人の個性を尊重し、子どもたちに関心を持ち 愛情を注ぎながら社会全体で育てて行くことができれば、こどもたちの安心に繋がるでしょう。「可能性に響く生き方をしよう」と自分を信じて努力する力を発揮し、生きる事を幸せに感じてくれるのではないのでしょうか？

又、心から支えてくれる人、そっと背中をおしてくれる人、自分を正しく理解してくれる人、寄り添ってくれる人に出会い、優しさを実感できている子どもは幸せだと思います。それはある意味、大人・子どもに関わらず誰にも必要な感情で、幸せを実感する為に必要な「人の縁」のような気がします。

施設で育つ間、関わる大人に必要なことは、人権を尊重すること、個性を尊重すること、関心を示すこと、愛情を持って接すること、人を育てる幸せを感じることに、使命感と行動で生きる力を養っていくことです。そんなふう子どもたちと過ごせれば、共に、18歳の施設退所を心から喜び、信じて社会に送り出せるのではないのでしょうか。大きな役割を果たせた結果として・・・

これは個々の家庭でも同じような気がします。

しかし大きな違いは、退所後に「見守ることができるか、安心して帰る場所があるか」という事です。現在のこどもを取り巻く環境や、生きる事の難しさから起こる問題の中、今の制度だけで充分とは言い切れない状況である事を知って頂き、関心を示して頂く事をお願い致します。

「施設で育った」「家庭環境に恵まれていなかった」等、やむをえない事情から、自信を失ったり、生きることを諦めたり、偏見に押しつぶされたり、理不尽な想いを感じたり、夢を持つことを諦めたり、自分をきらいになったり、大好きな親・身内社会を恨んだり、生きる幸せを感じられなかったりする事は、現代社会を生きる誰にも経験のある感情のような気がします。

社会情勢に応じて、個人情報保護や制度の狭間で、「自分は自分、他人は関係ない」となりつつあります。「お互い様」の心が無くなり自分の身を守る事で精一杯。人と人が会話を通じて心を通わせる事も少なくなりました。インターネットなど、人との摩擦を避けて手軽に入る膨大な情報の中から、自分の都合に合わせた物に頼ったり、人との出会いもバーチ

ヤルの中に求めたり。生きるリアリティを感じられない世の中になって、子どもたちの心が孤独感に覆われ、危険にさらされているような気がしています。

たくさん物が溢れかえっている中で「シンプルに考える事、迷わないようにすること」が難しくなり、生きづらくなっている現実を、大人がありのまま受け止めるべきです。そして誠実に話し合い、心の整理を一緒にして信頼関係を築き、生きていてくれる事をお互い感謝できれば、幸せを実感し、命や時間を大切に出来ると思っています。これは一人ではできない事です。子どもたちの人生の先輩である大人が力を合わせていきましょう。

私たちの団体に寄せられる悩みも、家庭・家族・身体・金銭トラブル・ネットトラブル等、多様です。そんな大切な胸の内を信じてお話し頂くには、人と向き合う心を「素」の状態にしています。自身の人生経験、考えを提案するより、相談者の「今」の気持ち寄り添い、相談者が「自分の心に気づく」きっかけをつくることが重要です。

悩みの解決に一歩進み始めた後は、「場」が存在し続ける事が一番の使命だと考えています。「兵庫サポートセンター」は、少しおせっかいをやく場所、しんどい時にふと休める場所、真剣に人の命について考える大人が一人でも多く集まり力を合わせられる場所、心の寄り添える場所だと思って頂ければ幸いです。昔あった「井戸端会議」のように、ふと立ち寄って頂けるよう願っています。

子どもたちが生きる幸せを感じて生きてくれる為には、私たち大人が、今を生きている事が幸せだと感じる事です。「今日一日、精一杯生きることは素晴らしいな」と思えるような流れを一人ひとりの大人が作りだし、大勢の人たちがそういう気持ちになってはじめて、ひとつの大きな流れを作り出すことができます。

「みんなが幸せになることを目指す」というものの考え方に立って、一人ひとりが自分にできることを地道にやっていけば、いい社会になり、子どもたちの未来に繋がっていくと信じています。